

1. 大都市圏拠点空港の整備

(1) 東京国際空港(羽田)の整備

羽田空港の再拡張事業

東京国際空港(羽田)は、国内航空旅客の約60%が利用する国内航空輸送ネットワークの要ですが、今後さらに国内航空需要の増大が見込まれる中、既にその能力の限界に達しています。

本事業は、新たに4本目の滑走路等を整備し、年間の発着能力を現在の28.5万回から40.7万回に増強して、発着容量の制約の解消、多様な路線網の形成、多頻度化による利用者利便の向上を図るとともに、将来の国内航空需要に対応した発着枠を確保しつつ国際定期便の受入を可能とするものであり、平成16年度から事業化が認められています。

<事業の概要>

平成18年度予算では、新設滑走路・連絡誘導路の工事及びエプロン、新管制塔の整備等関連事業を実施します。

18年度要求額 1,626(605)億円

※()内は前年度予算

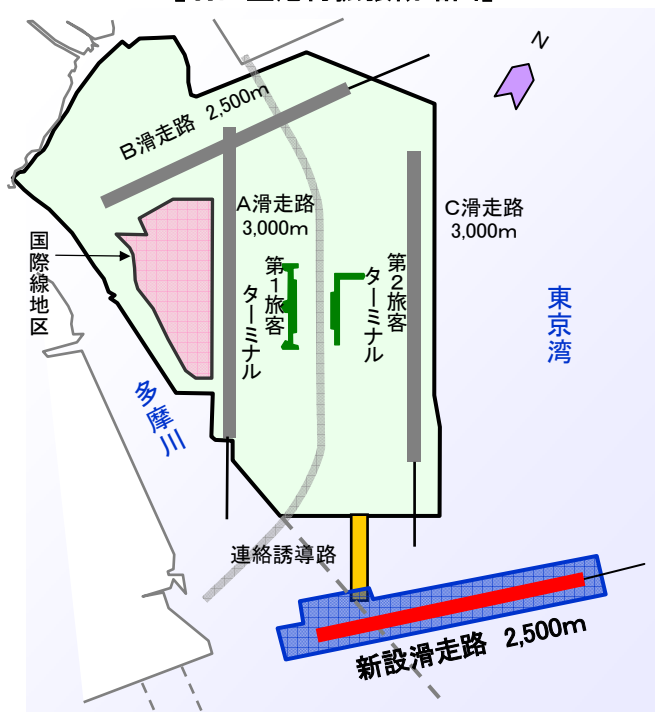
<財源スキーム>

- 整備事業費の約2割程度、概ね1,300億円について、地方公共団体が無利子貸付にて協力。
- 残りの事業費については、総額概ね、国費(一般会計から受入):財投=3:5で手当て。

<税制上の支援措置>

- 新設滑走路等に係る国有資産交付金の特例。

【羽田空港再拡張概略図】



再拡張により発着容量が1.4倍増加

《12.2万回/年(166便/日に相当)増加》

〔現行〕

29便/時間
28.5万回/年

《391便/日(782回)に相当》

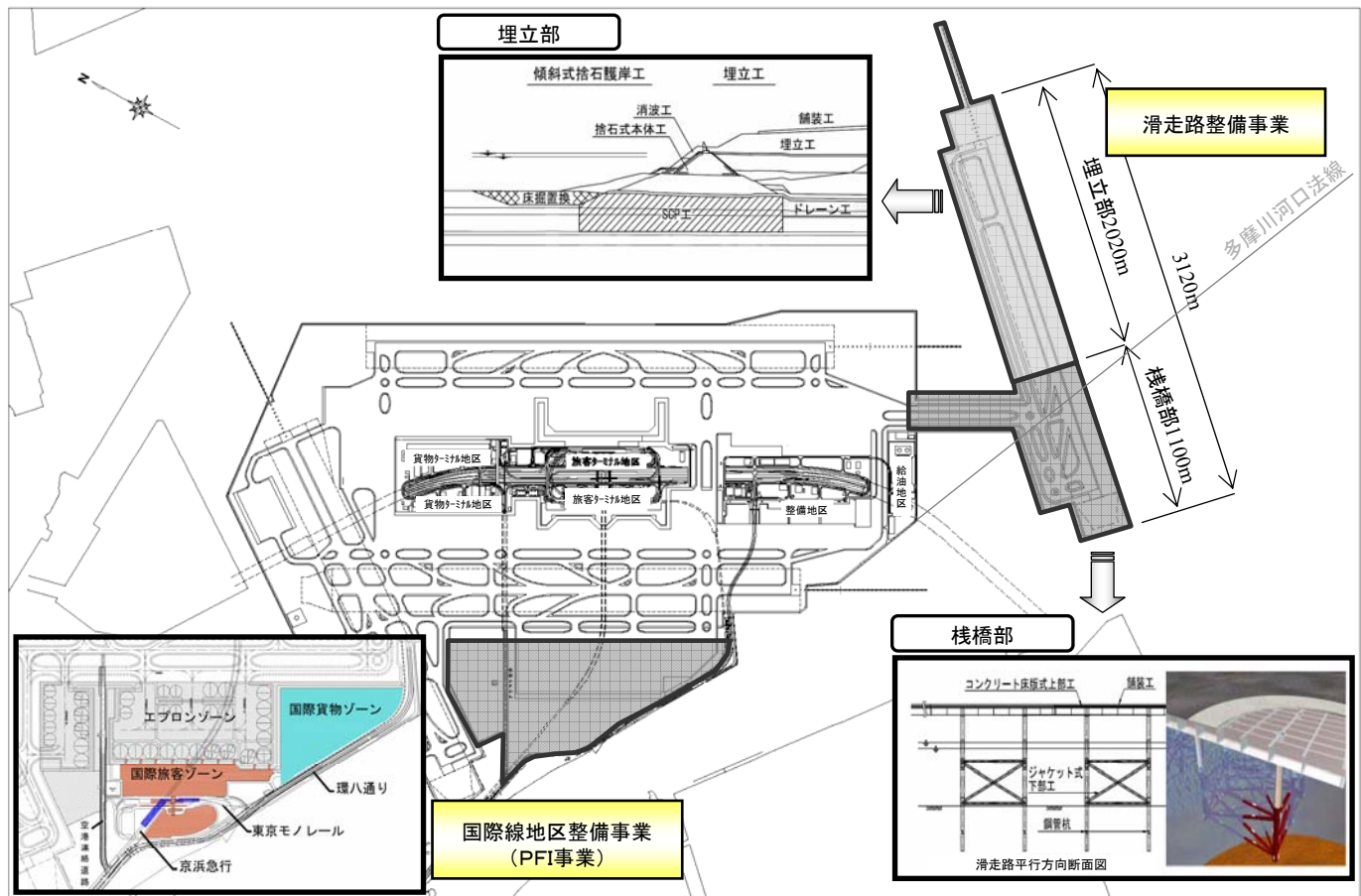


〔再拡張後〕

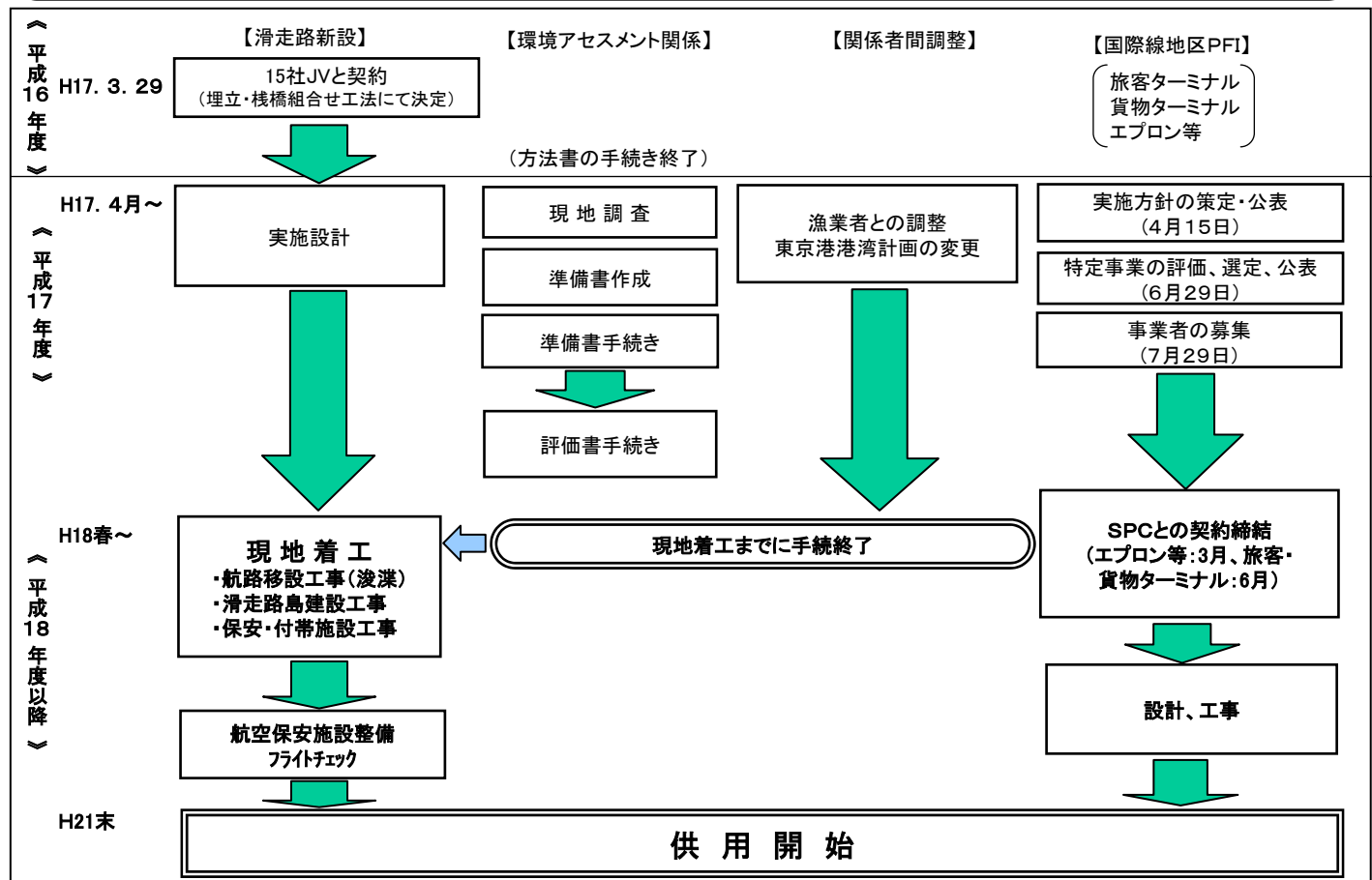
40便/時間
40.7万回/年

《557便/日(1114回)に相当》

羽田空港再拡張事業の整備概要



羽田空港再拡張事業に係るスケジュール



羽田空港の機能向上

羽田空港は、国内航空交通の中心として全国48空港との間に1日約400往復（平成17年8月ダイヤ）のネットワークが形成され、国内線で年間約5900万人（平成16年度定期便実績）の人々が利用しています。

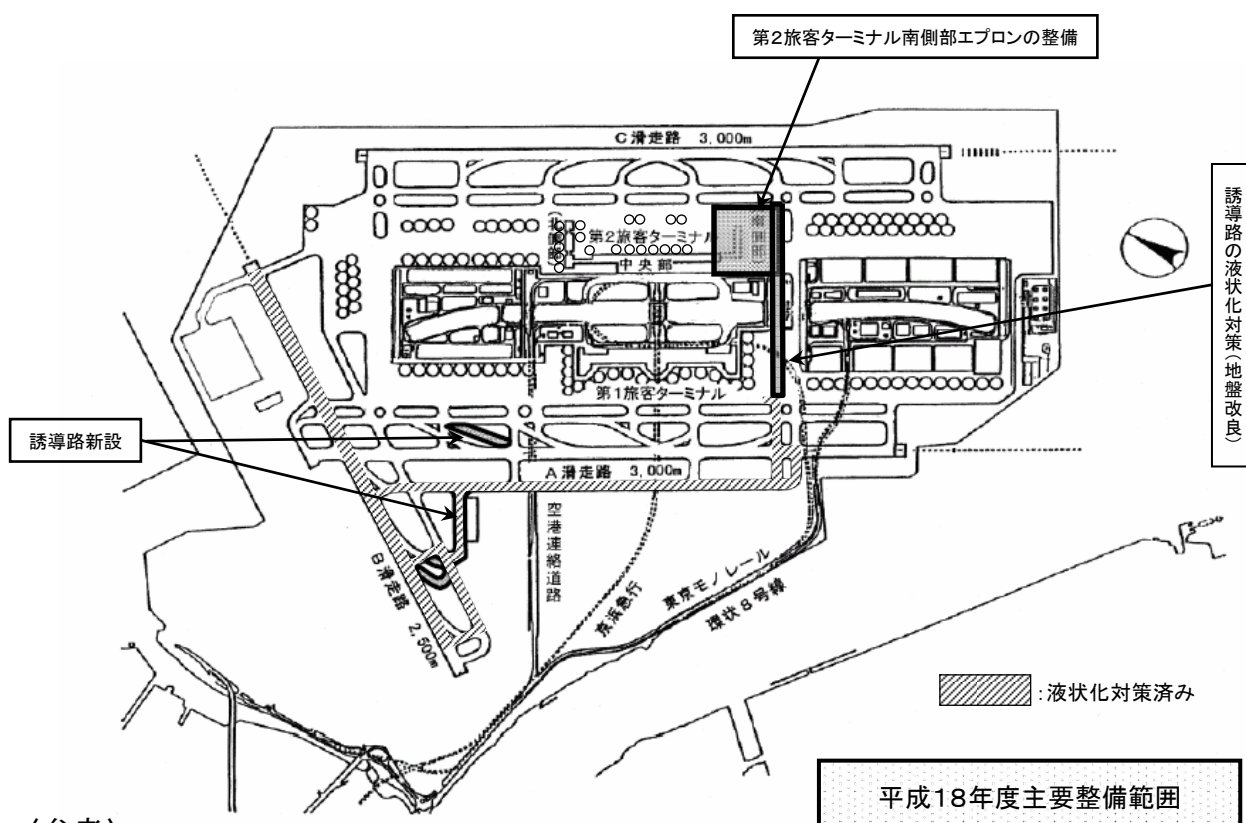
羽田空港の重要性に鑑み、今後とも、国内航空交通の中心としての機能を確保していくため、既存施設についても空港能力、利便性、安全性、耐震性の向上を図ることが不可欠であり、そのための整備を推進し、羽田空港の機能向上を目指します。

<事業の概要>

平成18年度は、第2旅客ターミナル南側部エプロンの整備、誘導路新設を実施するとともに、誘導路の液状化対策（地盤改良）、航空保安施設の機能向上等を行います。

事業費	401	（ 418 ）	億円
借入金償還	786	（ 759 ）	億円
18年度要求額	1,187	（1,177）	億円

※（ ）内は前年度予算



<参考>

沖合展開事業[昭和58年度～平成18年度(予定)]

第1期計画 A滑走路整備(昭和63年7月供用)
第2期計画 西ターミナル(第1旅客ターミナル)整備
(平成5年9月供用)

第3期計画 C滑走路整備 (平成 9年 3月供用)
B滑走路整備 (平成12年 3月供用)
第2旅客ターミナル整備(平成16年12月供用)

※第3期計画については平成18年度を目途に完了予定